

喜友名正さんの放射線被曝と悪性リンパ腫

1. 全国各地の原発の定検現場で非破壊検査に従事、最近の原発被曝労働者の中で最も過酷な被曝労働

喜友名さんは各地の加圧水型原発（泊、伊方、高浜、大飯、敦賀、美浜、玄海）や六ヶ所再処理施設の定期検査の現場で非破壊検査に従事した。以下の事実が彼の被曝労働の過酷さを物語っている。



- (1) 1997年9月から2004年1月までの6年4ヶ月間に99.76ミリシーベルト被曝（資料1-2）
- (2) 被曝限度いっぱいの被曝。
 - ・線量限度の5年間100mSvに近い被曝。
 - ・年間20mSvを超える被曝をしていた。（資料1-3）
特に2002年夏から2003年夏にかけて常態化していた。
喜友名末子さんは陳述書で、「夫は、時々、被曝しすぎて仕事ができないと言い、沖縄に帰ってきました。・・・むしろ、沖縄に帰ってくるのは、いつも放射線を浴びすぎて仕事ができないときだったという印象です。」と述べている。
 - ・定期検査の1日計画線量1mSvを超えた恐れがある。
（事例：関電大飯 2001年9月18日～9月20日で3.1mSv）
- (3) 原発被曝労働者の中でも被曝線量が最も高いグループに入る。（資料1-4）
 - ・被曝労働者の累積被曝線量の統計が2001年度から公表されている。
 - ・喜友名さんは2001年度以降の3年間に、8事業所で従事し、52mSv被曝している。
 - ・同期間に放射線被曝労働に従事した労働者88077人のうち、被曝線量が50mSvを超えた103名の労働者の1人が喜友名さんである。
 - ・また、同期間の関係事業所が8以上の労働者は396人であった。そのうちで8名の最も線量の高い労働者の1人が喜友名さんである。
 - ・日本の原発被曝労働者の疫学調査（第Ⅲ期）資料によれば、調査対象の27万4560人のうち、被曝線量が最も高いのは100mSv以上被曝の5325人であり、喜友名さんはこの中に含まれる。
- (4) 非破壊検査の平均被曝の11～40倍を被曝
喜友名さんは主として原発の定期検査の現場で非破壊検査に従事した。その被曝線量は工業分野での非破壊検査従事者に比べて高く、非破壊検査従事者の平均被曝線量の11～4倍に達している（資料1-5）。喜友名さんの高線量被曝は原発で働いたことによることを示している。
- (5) 従事した定期検査は43回
私たちの調査・分析では、喜友名さんが従事した原子力関連の定期検査は全部で43回にも上る。定期検査の被曝は高いといわれているが、喜友名さんは43回の定期検査のうち、37回でそれぞれの定期検査の平均被曝線量よりも高い被曝をしている。11倍という事例もある
喜友名さんの被曝線量の半分が、被曝線量が高かった10回の定期検査による。（資料1-6）

(6) 定期検査開始前から原発に入り被曝労働

喜友名さんは多くの場合、定期検査開始前後から従事開始している。(資料1-7)

2004年8月の美浜3号事故で、下請け労働者が噴出した高温の蒸気を浴び、そのうち5人が死亡した。彼らを含む多数の労働者が、定期検査期間の短縮のために、運転中の原発で定検の準備をしていたのである。

喜友名さんも、6件の定期検査で、稼働中の原発の放射線管理区域で働いていた。(資料1-8)

資料1-1 喜友名正さんの被曝労働の記録 (定期検査の帰属は私たちの調査・分析による)

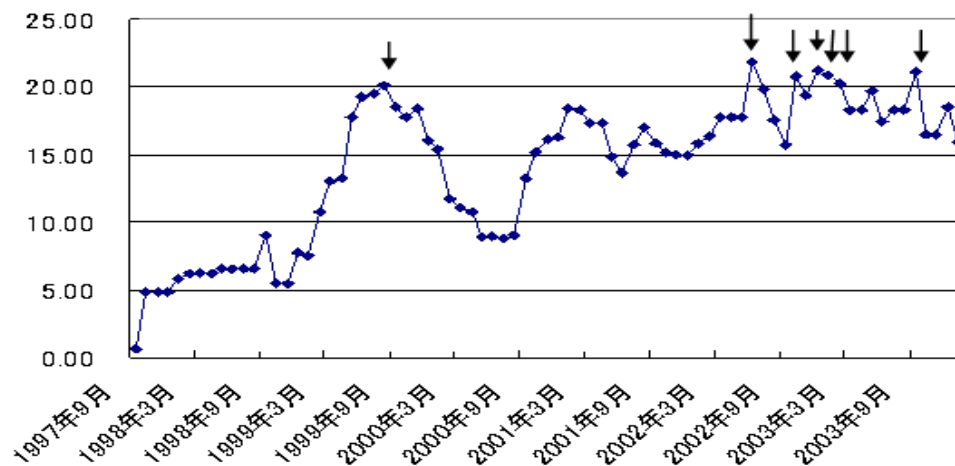
1997年度 従事 47日、積算線量 6.30mSv 労働者の平均年間被曝線量 1.3mSv				01.04～01.08	関電 大飯	1.20	大飯4、第6回
09.02～09.22	北海電 泊	0.60	泊2、第5回	01.22～01.31	秋田火力	0.90	
10.21～10.25	四電 伊方	4.20	伊方2、第12回	03.19～03.29	原電敦賀2	0.63	敦賀2、第11回
01.19～01.31	関電 高浜	1.00	高浜4、第10回	2001年度 従事 143日、積算線量 17.80mSv 労働者の平均年間被曝線量 1.3mSv			
02.02～02.09	関電 高浜	0.50	〃	05.17～05.31	九電 玄界	0.40	玄海1、第20回
1998年度 従事 144日、積算線量 13.00mSv 労働者の平均年間被曝線量 1.2mSv				06.01～06.05	九電 玄界	0.00	〃
05.18～05.20	関電 大飯	0.30	大飯4、第4回	06.28～06.30	関電 高浜	0.40	高浜3、第13回
06.08～06.12	関電 大飯	0.00	〃	07.01～07.14	関電 高浜	2.10	〃
09.11～09.30	原電敦賀2	3.00	敦賀2、第9回	08.24～08.29	関電 高浜	2.20	高浜1、第20回
10.01～10.08	原電敦賀2	0.70	敦賀2、第9回	09.14～09.16	九電 玄界	1.30	玄海3、第6回
11.01～11.30	関電 大飯	0.00	大飯2、第14回	09.18～09.20	関電 大飯	3.10	大飯3、第8回
12.01～12.08	関電 大飯	0.00	〃	10.04～10.31	四電 伊方	1.30	伊方2、第15回
12.10～12.23	関電 高浜	2.30	高浜3、第11回	11.01～11.26	四電 伊方	1.40	〃
01.09～01.20	四電 伊方	0.70	伊方2、第13回	01.24～01.27	関電 美浜	0.50	美浜、第19回
02.16～02.22	四電 伊方	3.80	〃	01.29～01.31	関電 大飯	0.20	大飯1、第17回
02.16～02.22	四電 伊方	3.80	〃	02.01～02.12	関電 大飯	0.60	〃
03.02～03.10	関電 大飯	2.20	大飯1、第15回	03.14～03.31	関電 大飯	2.00	大飯4、第7回
1999年度 積算線量 11.10mSv、従事 113日 労働者の平均年間被曝線量 1.3mSv				2002年度 従事 104日、積算線量 18.28mSv 労働者の平均年間被曝線量 1.4mSv			
04.01～04.09	関電 大飯	0.00	大飯1、第15回	04.01～04.04	関電 大飯	0.00	大飯4、第7回
04.19～04.30	関電 美浜	0.30	美浜3、第17回	04.30～04.30	関電 高浜	0.00	高浜2、第20回
05.01～05.12	関電 美浜	1.10	〃	05.01～05.09	関電 高浜	0.40	〃
05.26～05.29	関電 高浜	3.70	高浜4、第11回	06.08～06.24	原電敦賀2	4.48	敦賀2、第12回
06.19～06.30	関電 大飯	1.50	大飯3、第6回	06.26～06.29	関電 大飯	0.00	
07.01～07.10	関電 大飯	0.20	〃	07.01～07.06	関電 大飯	0.00	
08.19～08.25	関電 大飯	0.60	大飯4、第5回	09.16～09.29	関電 美浜	2.50	美浜1、第19回
09.01～09.09	関電 大飯	1.40	〃	10.02～10.29	関電 美浜	6.40	〃
11.13～11.29	四電 伊方	0.60	伊方3、第4回	12.10～12.26	北海電 泊	1.90	泊2、第9回
02.26～02.29	九電 玄界	0.10	玄海2、第15回	01.06～01.09	関電 大飯	2.60	大飯3、第9回
03.01～03.14	九電 玄界	1.60	〃	2003年度 従事 144日、積算線量 15.95mSv 労働者の平均年間被曝線量 1.6mSv			
03.17～03.19	四電 伊方	0.00		04.07～04.17	原燃再処理	0.00	
2000年度 従事 166日、積算線量 17.33mSv 労働者の平均年間被曝線量 1.3mSv				04.27～04.30	北海電 泊	0.00	泊1、第11回
05.05～05.30	北海電 泊	2.90	泊2、第7回	05.01～05.28	北海電 泊	1.80	〃
06.02～06.05	北海電 泊	0.00	〃	06.03～06.06	関電 高浜	1.00	高浜4、第14回
06.13～06.30	関電 大飯	1.50	大飯3、第7回	06.13～06.16	関電 大飯	1.00	大飯4、第8回
07.01～07.03	関電 大飯	0.10	〃	06.19～06.30	原燃再処理	0.30	第3回
08.30～08.31	関電 美浜	0.90	美浜3、第18回	07.01～07.29	原燃再処理	0.80	〃
09.01～09.12	関電 美浜	2.90	〃	09.02～09.29	原電敦賀2	5.28	敦賀2、第13回
09.16～09.30	北海電 泊	2.70	泊1、第9回	10.01～10.02	原電敦賀2	0.27	〃
10.01～10.13	北海電 泊	1.90	〃	10.20～10.29	四電 伊方	1.50	伊方3、第7回
11.11～11.30	関電 大飯	1.60	大飯4、第6回	12.18～12.22	関電 高浜	2.00	高浜3、第15回
12.01～12.27	関電 大飯	0.10	〃	01.14～01.20	関電 高浜	2.00	〃

注1 秋田火力以外はすべて原子力定検作業

資料 1-2 喜友名正さんの年度ごとの被曝線量 (資料 1-1 より)

年 度	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003
被曝線量 (mSv)	6.3	13.0	11.1	17.33	17.8	18.28	15.95

資料 1-3 喜友名さんの 12 ヶ月線量



資料 1-4 放射線業務従事者の累積線量、関係事業所 (2001~2003 年度)

		全労働者 (人)	うち、関係事業所数 8 以上の労働者 (人)
被曝線量 区分 (mSv)	50 以下	87, 974	388
	50 を超え 60 以下	103	8
	計	88, 077	396
平均線量 (mSv)		1.6	15.6

注 1 この期間の喜友名さんの関係事業所は 8 ヶ所、累積被曝線量は 52 mSv。

注 2 この期間の累積被曝線量が 60 mSv を超える労働者はいなかった。

資料 1-5 非破壊検査従事者と喜友名さんの被曝線量 (2001~2003 年度)

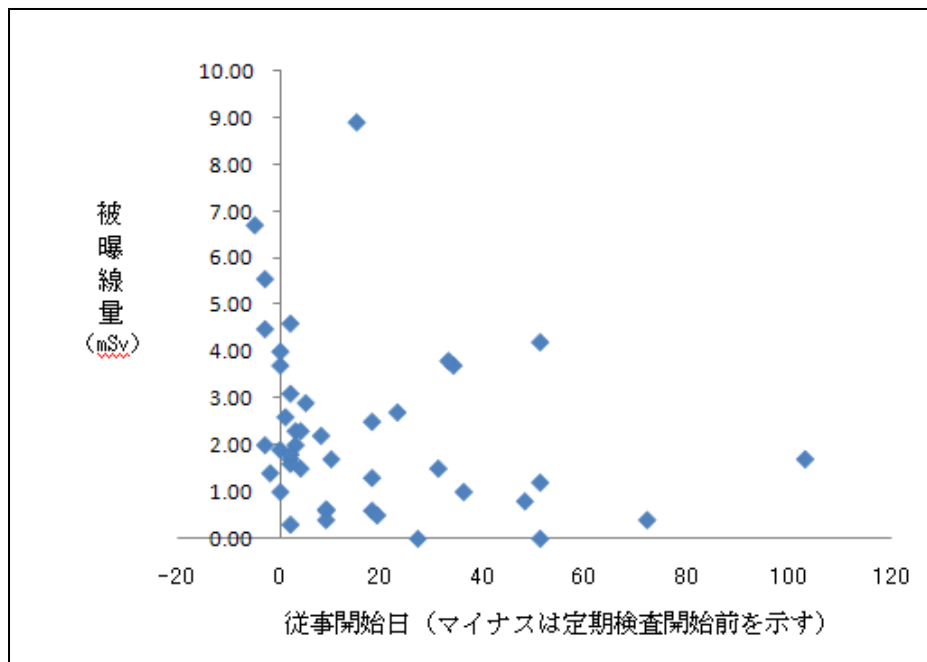
年 度		2001	2002	2003
被曝線量 (mSv)	非破壊検査従事者の平均	0.44	1.61	0.4
	喜友名さん	17.80	18.28	15.95

注) 非破壊検査従事者の平均は千代田テクノルK.KのFB News による

資料 1-6 喜友名さんの被曝線量が高い定期検査 (上位 10 件)

原発、定検回	定検従事者全体の被曝線量(mSv)		喜友名さんの被 曝線量(mSv)
	平均	最大	
伊方2 第12回	0.8	8.7	4.2
敦賀2 第 9回	0.5	5.2	3.7
伊方2 第13回	0.6	7.5	6.7
高浜4 第11回	0.7	8.74	3.7
美浜3 第18回	0.62	8.59	3.8
泊1 第 9回	0.4	8.1	4.6
敦賀2 第12回	0.42	6.68	4.48
美浜1 第19回	1.3	13.71	8.9
敦賀2 第13回	0.66	7.69	5.55
高浜3 第15回	0.97	12.05	4.0

資料 1－7 定期検査を単位とする、喜友名さんの従事開始日と被曝線量



資料 1－8 定期検査開始前から稼働中の原発で喜友名さんが被曝労働に従事した事例

原発、定検	定期検査の期間	従事者の被曝線量		喜友名さん		
		平均	最大	従事期間	日数	被曝線量
伊方 2 第 13 回	1999. 01. 14～ 1999. 04. 20	0. 60	7. 5	1999. 01. 09～ 1999. 01. 20	12	0. 70
美浜 3 第 17 回	1999. 04. 21～ 1999. 07. 09	0. 54	11. 96	1999. 04. 19～ 1999. 05. 12	24	1. 40
大飯 4 第 6 回	2000. 11. 14～ 2001. 02. 20	0. 37	7. 07	2000. 11. 11～ 2000. 12. 27	47	1. 70
大飯 4 第 7 回	2002. 03. 17～ 2002. 05. 14	0. 35	4. 52	2002. 03. 14～ 2002. 04. 04	23	2. 00
敦賀 2 第 12 回	2002. 06. 11～ 2002. 08. 06	0. 42	6. 68	2002. 06. 08～ 2002. 06. 24	17	4. 48
敦賀 2 第 13 回	2003. 09. 05～ 2003. 11. 26	0. 66	7. 69	2003. 09. 02～ 2003. 09. 29	28	5. 28

2. 日本の原発被曝労働者の労災補償例は極めて少なく、被害は放置されている

ウラン採掘、原発・再処理等は過酷な被曝労働、多数の被曝労働者を必要としその犠牲の上に成り立っている。日本の原発で被曝労働に従事した労働者は30万人規模に達するが、その労災補償例は申請・認定数および疾病の種類が極めて少なく、被害は放置されている。

公表されている日本の原発被曝労働者の総被ばく線量は、約3000人・シーベルトである。これによる晩発障害は、ガン・白血病による死亡に限っても300人と推定される。

厚生労働省は「これを評価する立場にはない。」と被害の深刻さを認めようとしていない。「被曝限度を超えない程度の被曝線量では健康への深刻な影響はない。」として離職後の健康管理とそのための健康管理手帳の交付の必要性を認めようとせず、また、被曝労働者の救済に役立てるために必要な労災申請とその結果に関する基礎資料の開示も拒否してきた。

2005年に公表された国際がん研究所の報告によれば、20ミリシーベルト以上の被曝グループは有意に全がんの死亡率が高まっている。被曝労働者は被曝限度以下でも被害を被っている。また、国際的に認められている原則的な理解では、より低い被ばく線量であっても被害は線量に比例して生じる。日本の原発被曝労働者の疫学調査資料によれば、調査対象の男性274,560人のうち、20mSv以上の人数は、35,031人で、全体の12.8%である（資料2-1）。このことは、健康管理手帳の必要性の大きな根拠となる。

これまでに確認されている原発・核燃料施設労働者の労災補償申請・認定の状況は、JCO臨界事故による急性障害3件を含めて、申請17件、認定9件である。（資料2-1）

例えば、イギリスでは原子力施設労働者の補償申請は1986年から25年間に1400件でそのうち114件が認定されている。これと比べると、日本の被曝労働者が放置されている事は歴然としている。

JCO事故以外で労災認定された疾病は白血病のみであったが、2004年1月に長尾さんの多発性骨髄腫が白血病以外で初めて労災認定された。

喜友名さんの悪性リンパ腫を労災認定させることの意義は、第一に、氷山の一角として明るみに出た被害を補償する事であり、第二に、長尾さんの多発性骨髄腫労災認定とあわせて、日本の原発被曝労働者の労災補償の狭い門をこじ開けることである。

資料2-1 日本の原発被曝労働者の被曝線量

線量 (mSv)	<10	10-	20-	50-	100-
人数	217, 572	21, 957	20, 644	9, 062	5, 325

出典：原子力発電施設等放射線業務従事者に係る疫学的調査（第Ⅲ期） 放射線影響協会

調査対象は、男性274,560人

被曝線量が20mSv以上の労働者は、35,031人で、全体の12.8%

資料 2 - 2

原発・核燃料施設労働者の労災補償申請・認定状況

(双葉地方原発反対同盟「脱原発情報」No.52 号に追加)

申請日／決定日	結果	疾病名	期間、被曝線量	労基署	施設名	備考
75.3.19／75.10.9	不支給	皮膚炎		福井・敦賀	原電敦賀	配管加工・岩佐嘉寿幸さん
82.5.31／	不支給	白血病性悪性リンパ腫		島根・松江		
88.9.2／81.12.26	支給	慢性骨髄性白血病	11ヶ月 40mSv	福島・富岡	福島第一	配管腐食防止作業
92.12.1／94.7.27	不支給	急性骨髄性白血病		兵庫・神戸西		
92.12.14／94.7.27	支給	急性骨髄性白血病	87.7～92.12 5年5ヶ月	兵庫・神戸西	玄界・大飯・高浜	定期検査作業
93.5.6／94.7.27	支給	慢性骨髄性白血病	81.3 ～ 89.12.8 8年10ヶ月 50.63mSv	静岡・磐田	浜岡	計測装置点検作業 嶋橋伸之さん
96.5.27／?	不支給	再生不良性貧血		福島・富岡		
97.5.16／?	不支給	慢性骨髄性白血病		副島・富岡		
98.12.22／99.7.30	支給	急性リンパ性白血病	87.12～97.1 約12年 129.8mSv	茨城・日立	福島第一、東海、島根	日立市電機メーカー作業員・装置点検従事 人間ドックで発見
99.10.20 99.10.26	支給	急性放射線症	1～4.5Sv	茨城・水戸	JCO 東海事業所	臨界事故被曝
99.10.20 99.10.26	支給	急性放射線症	6.0～10Sv			
99.10.20 99.10.26	支給	急性放射線症	16～20Sv			
99.11.20 00.10.24	支給	急性単球性白血病	88.10 ～ 99.10 約12年 74.9mSv	福島・富岡	福島第一・第二、東海第二	配管・架台・構造物等の溶接作業に従事 自ら受診
02.11.8／04.1.13	支給	多発性骨髄腫	77.10～82.1 4年3ヶ月 70mSv	副島・富岡	福島第一、浜岡	濃縮廃液系配管・格納容器内点検作業 長尾光明さん
2002.?.?／03.3.12 04.3.26 審査 07.7.4 再審査	不支給 同 同	肺ガン	77.12～78.7 2.9 mSv	東京・亀戸	福島第一	応力腐食割れの対策の準備作業 小田原敦彦さん
05.10.28／06.9.4 06.10 不服申し立 07.6 りん伺に戻し、 本省で再検討する対応 (審査官の審査を凍結)	不支給 審査中	悪性リンパ腫	97.9～04.1 6年4ヶ月 99.76mSv	大阪・淀川	泊、伊方、美浜、高浜、大飯、敦賀、玄界、六カ所再処理	定期検査時の非破壊検査 喜友名正さん 2008年10月の第5回検討会で、認定の方向に
06.2.15／	不支給	急性リンパ性白血病		福島・富岡		放射線管理業務等に従事
06.?.?／	不支給	急性リンパ性白血病		福島		電気計装関係の検査・点検工事等に従事